

令和7年度 行政の諸課題解決のための大学生による多角的アプローチ事業  
「人口減少対策（特に若者・女性にも選ばれる地方になるための取組）」

## 持続する地域をつくる ためには

山陽学園大学総合人間学部ビジネス心理学科

1

## SNSと若者の地域間移動

- 他県から岡山県内の大学に入学した学生の声
  - 家族と離れるのはやはり寂しい
  - SNSのような連絡手段がなければ、岡山に来ていないかも
  - 就職や住居の選択についての情報源
  - 先生からのアドバイスを重視し、地元の情報とインターネットを組み合わせる判断

2

## 事業を通じて見えてきたこと

3

## 人口減少は深刻 日本経済新聞2026年2月26日記事

- 「日本の2025年の出生数70.5万人  
少子化は推計より17年早く、人口減も進行」
- 少なくなる人口を自治体が奪い合う

4

## 昔のにぎわいの再現は難しい



社会状況は大きく変化している  
**今の時代に合った形**を考える必要がある

5

## 小さな自治体には可能性がある？ 例：高梁市、和気町

- 意思決定が比較的速い
- 若者提案を試行しやすい
- 成功体験を生みやすい
  
- 大規模自治体（岡山市、倉敷市）は制度が整っている分、変化に時間がかかる側面があるかも？

6

## そのためには

- 小さな自治体の成功事例を横展開するハブ機能
- 若者提案の実践事例を可視化・共有する仕組み

「岡山なら、若者の声が実際に形になる」  
 という空気を作る

7

## 今後の課題：若者の声の翻訳

- 若者の発言は“政策要求”そのものか？
- 例：「アリーナをつくって有名アーティストを呼んでほしい」
  
- これは大型施設整備の要望というよりも、
  - 「一流を呼べる地域であってほしい」
  - 「外に誇れる場所であってほしい」
- という象徴的メッセージの可能性

8

## 若者の声を「実施可否」で 判断するのではなく 価値に翻訳する

「若者の声を読みとく調査」の**必要性**

9

## まとめ

- 若者の挑戦が各地で生まれる環境を整える必要
- 小さな成功をつなぎ、県全体で共有すれば、  
**若者が関わり続ける地域づくり**につながる

10